

作品研究) 紙版画による色彩表現 (Color expression by paper block prints)

栗本 佳典¹⁾

抄録

図画工作などで行われる紙版画を利用して、異なる色の版を重ね刷りすることにより、従来の紙版画とは異なる豊かな色彩表現の版画作品の制作が可能となっている。その制作方法および今回の作品のテーマについて紹介する。

キーワード：紙版画、木版画、インク、重ね刷り、圧力

I. はじめに

小学校の図画工作などで行われている紙版画は、簡単な手法で版画の効果を表現できるものとして、しばしば授業に取り入れられている。その場合、黒一色または単色で刷られるのが一般的であり、応用として一版多色刷り（一つの版に同時に複数の色をつけ分けて刷る方法）がある。私の場合は、その紙版画を利用して、異なる色の版を重ね刷りすることにより、豊かな色彩表現の版画作品を制作することに取り組んでいる。

II. 作品紹介

この作品は、彫りだけで作成した部分と紙版画を利用して作成した部分を組み合わせている。画面の左側が彫りだけの部分、右側が紙版画を利用した部分となっている。木版画は凸版の一種であり、版木の凹凸を利用して作品を刷る技法である。浮世絵版画のように基本的には版木を彫刻刀で彫り、彫り残った凸部分に絵具をつけて紙に刷り取る。つまり、凸部分と凹部分の高低差があれば成立する技法となる。紙版画の場合は、彫る代わりに紙を貼りつけて高低差をつくり出すのである。小学校などでは厚紙を台紙にして、その上にいろいろな形に切り抜いた画用紙を糊で貼りつけて版を作成する。私の場合は、耐久性を高めるためシナベニヤ板を土台にして、その上にいろいろな形に切り抜いた薄いケント紙を木工ボンドで貼りつけて版を作成する。この版がメインの版となる。

刷りの手順を説明する。まず和紙の中央から右側に、何も彫っていない版に黄色インクを乗せて均一に刷る（制作過程写真1）。次にメインの版に明るい水色インクを乗せる（制作過程写真2）。それを前述の黄色部分にぴったりと重ねて刷る。このとき、紙の凹凸や段差が形となって現れる。色が重なった部分は、黄色に水色が混ざることによって明るい黄緑色になる（制作過程写真3）。今度はメインの版の水色インクを拭き取り、同じ版に赤色インクを薄く乗せる（制作過程写真4）。

それを軽い圧力で同じ部分にぴったり重ねて刷る。すると、紙の高い部分のインクだけが刷られ、水色のときは少し異なるインクの着き方となる（制作過程写真5）。赤色が軽く重なることで、明るい黄緑色に赤色がやや染み込んだような色彩になる。これで右側が完成。その後、紙の左側に何も彫っていない版に明るいグレーインクを乗せて均一に刷り、その上に彫刻刀で線を多数彫った版にグレーインクを乗せて重ねて刷る。これですべて完成となる。

従来の紙版画の単色刷りや一版多色刷りとは異なり、刷る色によって圧力を変えることで、重ね刷りによる色の微妙なハーモニーをつくり出すことができる。

作品のテーマは、植物の発芽である。小さな種から発芽して、日光を浴びてぐんぐん伸びていく植物のエネルギーや神秘性を抽象的に表現した。画面左側は静かな種の状態を無彩色のグレーで表し、画面右側は活動的な発芽のイメージをカラフルな3色の重なりで表した。

III. 出品

第65回（2022年）CWAJ 現代版画展

期間：2022年10月19日（水）-10月23日（日）

会場：ヒルサイドフォーラム（代官山）

CWAJ（College Women's Association of Japan）は、1956年以来、毎年CWAJ 現代版画展を開催して日本の現代版画を展示・販売している。版画の魅力を広く世界に伝えるとともに、その純益で850名以上の留学生・視覚障害学生・版画作家に、奨学金や助成金を提供している。

参考文献

- 1) 山口雅英 紙やすりを台紙とする紙版画一版多色刷り技法 愛知産業大学造形学研究所報 2022年 p 47-54

1) KURIMOTO Yoshinori

山野美容芸術短期大学

連絡先:〒192-0396 東京都八王子市鎌水 530



タイトル：発芽のしくみ

サイズ：37×57cm

素材：木版、紙版、和紙、
油性インク

第65回(2022年)CWAJ
現代版画展に出品



制作過程写真 1



2



3



4



5